

みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ 〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報係 (内線417) へどうぞ。

30年振りの例大祭に感激

8月25日晚夏の晴天の下で諏訪神社(西館勲宮司)の例大祭が施行されました。

30年前、諏訪神社を建立し8月17日夜祭りの時はあいにくの雨天の為に1日順延となりました。その晩は出漁した船はスルメ大漁でしたので

関係者たちは頭の下がる思いだったことでしょう。18日に例大祭が施行されてから30年という年月が経過しました。当時は3年に一度ということでしたが、諸々の事情により行われなかったことと思います。

ことしは各地区の広場において郷土芸能並びに有志たちの踊りなどの奉納が行われ、鎮魂と復興を後押しするかの様に見物客が殺到し、所狭しと言われないばかりに盛大に施行されましたことは関係者たちのたまものと存じ、頭の下がる思いです。

山崎 泰司(船越・67歳)

バンタロウ

今にして懐かしさの中の一つに「カレイ突き」という言葉がある。今はほとんど言うことも聞くことも全くない時代。でも、

俺が小学生時代に皆で使った言葉。俺は「カレイ突き」の大名入だった。

あの夏の暑い盛り、真裸になり、サツパ船を乗り出して、筵に竹棹を通して、筵帆を立て、風に乗って遊んだもんだ。その帰り、風に向かって交代で櫓や櫓を漕ぐが、ここで前述の「カレイ突き」が始まる。

《次号へ続く》

山崎 卓三(大浦・?)

方言と笑い話

事の話しの時期は定かではないが、田舎から都会へ就職で出て行き、見るもの聞くものもみんな初めてのもの。それでも一生懸命働き、都会の生活にも慣れて、5年と7年と働いている内に彼氏も出来て、やがて結婚をし、子どももできる。

数年後、子どもを連れて、お盆に帰省して孫を一目と、新幹線もタクシーもない時代、ようやく実家に着いたれば、ばあちゃん「暑かったべえ、こえーかったべー、早くこつちや来て休めえ」とねぎらいの声を掛けられ孫いわく「ママ、来る途中に恐いもの何もないかったよね」と言ったそうだ。そこでママは「暑かったでしょう、疲れたでしょう、早く涼しい所へ

来て休みなさい」と、言っているのよ、と解説したとの笑い話を聞いた事を懐かしく思い出している。

お盆が来る度に、どこかで、そんな微笑ましい家庭的な話を聞きたいものだが、近ごろのじいちゃん、ばあちゃんでも方言をまるっこ出して言う事は、少ないでしょうからね。

西館 隆(船越・80)

山田節

①おらが山田は漁場の港

スルメやサンマにカキホタテ
出船入船大漁旗

②おらが山田は自然の港

眺めの良いのは日本一
大島小島を中にして磯の香り
もほんのりと

③おらが山田は美人の港

新巻作りにもぎやかに
恋の花咲くこともある

④おらが山田は歴史の港

オランダ島をば前に見て
北にそびえる十二神

港祭りは日本一

※この歌は、「秋田節」の替え歌です。

岡市 健吾(飯岡)

やまだ文芸広場

朝顔

夏にはなんといっても朝顔が似合いそう
仮設の庭に蔓をのばして赤、むらさきと
命いっぱい花ざかり
私たちをたのしませ
ひっそり萎む朝顔は
未練残して花ふたつ
夏の終りを告げている

菊地 サカエ(織笠・78歳)

街道を

虎舞ひ荒ぶ秋祭
一杯の飲みたる酒の味わいを
問う人あらば何とこたえん

仲秋の澄みわたりたる満月は
煌々と冴えん灯火となりけり

内館 洋一(飯岡・?)

年輪が

旅の範囲をせまくする
われひとり
静かに食べる夕ごはん

芳賀 誠一(豊間根・72歳)

とんぼ

夕暮れのとんぼを見ると
みんなに幸せ飛んで、
ホシイカラ・・

佐藤 啓子(船越・?)

イラストコーナー



りよ一君(織笠・13)

イラストどん
どん送ってください♪

